

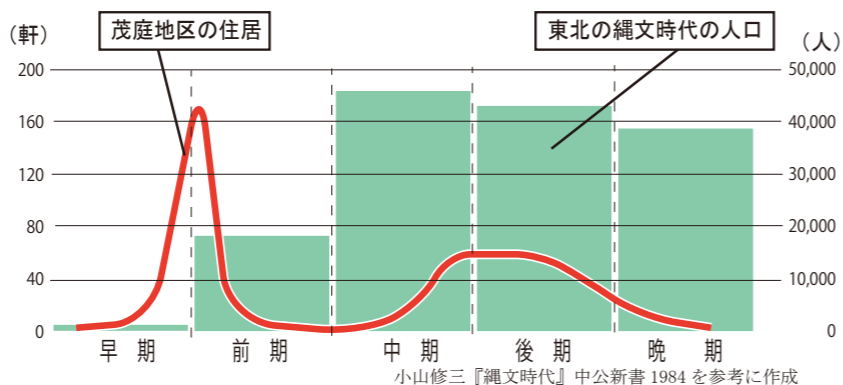
第17回 茂庭の遺跡～ダムに沈んだ遺跡 10000年の変遷—新しい社会の誕生 (飯坂町茂庭)

摺上川上流に位置する茂庭地区では縄文時代早期の終わり頃（今から約6500年前）から、**八方塚A遺跡**から3km下流の**下ノ平D遺跡**まで摺上川の両岸にいくつもの集落が展開します。その中心となる**獅子内遺跡**は早期末から前期前葉まで100軒をこえる住居跡が検出されています。前期前葉（今から6000年前）はそれ以外のいくつかの遺跡でも、集落が拡大し人口が大幅に増加したことが確認でき、小さく分散していた集落が大規模な集落に統合・集約されたと考えられます。

しかしその後、前期中葉から中期中葉まで茂庭地区に集落は現れず、再び遺跡数が増加してくるのは複式炉の出現する中期の後半（今から約4500年前）です。摺上川と烏川の合流地点からやや下流に立地する**弓手原A遺跡**が中心となりますが、中核となる大規模な集落は現れず、小規模な遺跡が点在する傾向が顕著です。さらに中期から後期・晩期と集落は縮小傾向にあり、特に晩期は数軒の住居跡が単独で各地に散在するだけになります。

中期には、福島市内では阿武隈川沿いの**宮畑遺跡**や**和台遺跡**、摺上川下流の**月崎A遺跡**など大規模河川沿いに拠点集落が展開しており、東日本全体を見ても中期には大規模な集落が出現して遺跡数も増大します。その一方で、茂庭地区にあるような小規模な集落は、採集・狩猟・漁撈などの基地あるいは流通・交流の中継点といった、生業における具体的な役割を担う場へ変化していったと考えられます。

東日本では、後期・晩期には、拠点集落を中心に社会がより複雑化する中で、集団生活を円滑に行うために、祭祀や儀礼が一層必要とされるようになり、呪術的・儀式的な遺物と呼ばれるもの、装身具類などが発達していきます。そのことを、**宮畑遺跡**の後・晩期の遺物がよく物語っていますが、茂庭地区では中期以降においても土偶・石棒をはじめとする祭祀土製品・石製品の出土が極めて少ないといった、生活痕跡の欠落が特徴として指摘されています。



いまから12000年前にわずかの集落から始まった縄文社会も、前期から中期には大規模集落へと発展した。いまから4000年前には、拡大した社会を維持するための秩序は複雑になり、やがて生活と祭祀の場の分離が進み、何十人もの協働、異なる集団間の協力に頼る技術が開発されていきました。全国各地でさまざまな共同体が活発に活動する様は、ある意味縄文時代の「地方創生」であるといえます。**宮畑遺跡**で掘立柱建物が建てられた晩期のころには、日本列島は大きな転換期を迎えます。大陸から水田稲作農耕が伝わり、新しい文化が西日本から広がっていきます。弥生時代の始まりです。

さて、縄文遺跡の紹介はこの「宮畑だより20号」を一つの区切りに終了とし、新年度からは稲作農耕文化を基軸とする「弥生時代の遺跡」を連載します。引続きご愛読下さい。

じょーもぴあ宮畑だよりは平成22年7月に第1号を発行して以来、平成29年2月の本号をもって第20号となります。そこで、各委員会の委員長にこの1年の活動や報告をまとめてもらったり、会員の皆さんには「活動を通して感じたこと、紹介したいエピソード」を書いてもらったりして、本号をまとめました。会員の皆さんのご意見を取り入れながら、さらに、福島市民の皆様にとって縄文時代の学びの場として、じょーもぴあ宮畑を一層活用していただけるように、じょーもぴあ・遺跡の案内人一同努力していきたいと思っています。

編集後記

開園時間 9:00~17:00 (駐車場は8:30~17:30)
 定休日 ◆体験学習施設・露出展示棟
 ▶火曜日/年末年始(12月29日~1月3日)
 ※火曜日が祝日の場合は、翌日以降の祝日にあたらない日
 ※福島市公立学校の春・夏・冬季休業中は毎日開館

住所 〒960-8201 福島県福島市岡島字宮田78
 電話 (024) 573-0015 F A X (024) 573-0016
 体験学習施設 展示室観覧料
 個人 一般200円/高校生以下100円
 団体 一般140円/高校生以下 70円
 ※未就学児無料 ※団体は20名から

じょーもぴあ宮畑 だより 第20号 平成29年2月 みやはた

★「じょーもぴあ」とは、「縄文時代を身近に感じられるユートピアのような場所」の意味です。発行：じょーもぴあ・遺跡の案内人 編集：じょーもぴあ宮畑だより編集班

おかげさまで10万人!

平成27年8月8日に全面開園したじょーもぴあ宮畑ですが、その体験学習施設じょいもんは、平成29年1月29日(日)入館者が10万人を越えました!

みごと10万人目となったのは、市内小倉寺からきた叶千歳君です。10万人目を記念して小林市長から、記念品の縄文土器のレプリカとじょーもぴあ宮畑グッズが手渡されました。

千歳君はじょーもぴあ宮畑は2度目で、以前お父さんと一緒に来ることがあるそうです。

また前後賞として、99999人目の小峯みのりさん、100001人目の駒場理人君にも同じく小林市長より記念品が手渡されました。



小林市長から記念品の土器を手渡される叶千歳君



左から小峯みのりさんとその家族、小林市長、10万人目の叶千歳君とお母さん、駒場理人君とお母さん



開館以来、10万人の入館者を案内してきたじょーもぴあ・遺跡の案内人も小林市長と一緒に記念撮影

じょーもぴあ宮畑 この一年

この一年を、じょーもぴあ・遺跡の案内人の活動と、じょーもぴあ宮畑の事業を中心に振り返ってみましょう！

◆活動推進委員会

じょーもぴあ・遺跡の案内人は、日々の案内ガイドや縄文体験のサポートだけではなく、活動推進委員会を中心に様々なイベントを企画・運営しています。

今年は縄文鍋まつりやフリーマーケット

と連携した縄文人体験会を行い、大勢の方に楽しんでいただきました。「県都ふくしま人のためのやさしい地元学」と銘打って実施したオープンカレッジでは、

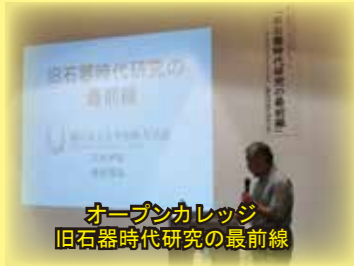
考古学研究の第一人者を講師としてお招きしました。また、活動はじょーもぴあ宮畑にとどまらず、フィールドワークとして参加者を募集し、市内の遺跡や史跡を案内しました。来年度もじょーもぴあ宮畑を中心に、様々な企画を行う予定です。



案内ガイド



体験サポート（火おこし体験）



オープンカレッジ
旧石器時代研究の最前線



オープンカレッジ
東北地方古墳研究の最前線



ワークショップ（土偶作り）

◆研修委員会

じょーもぴあ・遺跡の案内人では、会員のスキルアップのために様々な研修を行っています。10月に小島の森で実施した研修では、福島大学の黒沢先生から果実や種子の形態と散布というテーマで、興味深いお話を聞くことができました。11月には東松島市の里浜貝塚や奥松島縄文村歴史資料館をはじめ、東北歴史博物館、七ヶ浜町大木岡貝塚・歴史資料をおとずれ、貝塚を中心に宮畑遺跡とは環境の異なる縄文時代の生活に想いを馳せました。

また、「住」という研修テーマを自分達で設定し、竪穴住居を実際に作ってみよう！と多数の会員参加のもと、住居を復元し、完成後に焼却実験を実施しました。童心に帰りながらの楽しい共同作業に参加者の顔が輝いていました。これからも会員のスキルアップを図っていきたいと思います。



館外研修（小島の森）



館外研修（里浜貝塚）



スキルアップ研修
（竪穴住居制作）



スキルアップ研修
（竪穴住居焼却）

広報委員

広報委員会は宮畑遺跡や縄文時代の魅力を伝えるために広報活動を行っています。じょーもぴあ宮畑だよりを年3回発行し、市民の皆様を始め多くの方々にじょーもぴあ宮畑を知っていただくことができました。また、じょーもぴあ・遺跡の案内人の活動を紹介する「しおり」を作成し、8月に福島市で開催された縄文シティサミット in ふくしまで、全国から参加された皆様にお配りしました。縄文鍋まつり・オープンカレッジ・新規会員募集のために民報・民友新聞を訪問し、マスコミへのPRも行っております。イベントの際は「広報委員」の腕章を付けて写真撮影や参加者への取材などにも取り組んでおります。



◆じょーもぴあ宮畑

じょーもぴあ宮畑では、土笛づくり（4月）に始まり、土偶（6、10月）、縄文土器（6、8月）、縄文風エコバッグ（8月）、縄文タペストリー（11月）、縄文リース（11月）、縄文キャンドルシェード（12月）などを製作するものづくり体験を中心に主催事業を実施しました。また、15組28名が参加した親子自然観察会（7月）、130名が参加した宮畑ウォーク（11月）など、屋外での活動も好評でした。



縄文土器野焼き



凧づくり



縄文リース

今年初めて企画したエンタランスコンサートでは、北海道在住のチェリスト土田英順氏をお招きしました。チェロの豊かな響きはエンタランスホールの独特な雰囲気と相まって、素敵なコンサートに仕上がりました。



チェロコンサート

このほか、夏と秋の縄文まつりに加えて、フリーマーケットなど、じょーもぴあ宮畑を会場に、様々な活動を実施しています。来年度も市民に喜んでいただけるよう努力いたします。



フリーマーケット

シリーズ展示案内 ④

じょいもんの展示室は円形の「縄文の四季」の展示のまわりに、3つのテーマ展示室が並びます。

最初のテーマ展示は「直径90cmの柱から見える縄文社会」と題して、宮畑遺跡で見つかった縄文時代晩期の巨大な掘立柱建物を取り上げています。



最初のコーナーは、「木材の伐採と運搬・加工」についての説明です。樹木の伐採・加工がどのような道具で、いかにして行われたのかを発掘資料とパネルを使って具体的にわかりやすく解説しています。宮畑遺跡から出土した磨製石斧・打製石



展示「シンボルを建てる」

斧以外にも、市内の他の遺跡から出土した資料や復元品も展示しており、縄文時代の技術について総合的に理解できる解説となっています。



磨製石斧